

第64回 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 議事録

1. 日 時：2011年2月23日（水）10:00～20:30
2. 場 所：日本機械学会 第1会議室
3. 出席者：(委員25名中、出席者22名；敬称略)
小山（MHI）、永田（日立GENE）、堂崎（原電）、三木（富士電機システムズ）、野村（関電）
植田（原安委）、小木曾（川崎重工）、吉田（発電技検）、船田（JNES）、高橋（電中研）
三浦（JSW）、鹿島（電中研）、藤澤（保安院）、国則（電気協会）、鬼沢（JAEA）、平山（東芝）
町田（テプシス）、肥田（中部プラント）、小島（東電）、山田（中部電）、森下（JAEA）、兼近（鹿島）
欠席者：栗飯原（東大）
オブザーバー：松浦／赤瀬／伊藤（東電）、齋藤／杉江（原技協）、北条／原田／林／大谷（三菱重工）
阪田（OCL）、三枝（電中研）、齋藤／山本／脇岡（東芝）、守中（日立GENE）
加納／高坂／長津（日本原燃）、澄川（日立ICC）、鬼澤（MFBR）、浅山（JAEA）
事務局：薄井、高柳
4. 配布資料
 - 64-1：第63回原子力専門委員会議事録案
 - 64-2：投票結果
 - 64-3：新規質問及び未回答質問
 - 64-4：第55回発電用設備規格委員会議事録案
 - 64-5：原子力専門委員会委員／分科会委員案
 - 64-6-1-1：各分科会平成23年度活動計画等
 - 64-6-1-2：規格整備2011年度計画案
 - 64-6-1-3：技術評価に関する状況
 - 64-6-2：材料規格改訂状況
 - 64-6-3：MDEP 成果反映方針検討タスク設置提案
 - 64-6-4：ノートへの投稿方針
 - 64-6-5：爆轟による配管健全性評価における歪み制限検討タスクの設置
 - 64-6-6：材料JIS規格年版読替に関する考え方
 - 64-7-1：事例規格圧力容器用調質型合金鋼鍛鋼品 SFVQ1B に関する規定案に対する書面投票対応案
 - 64-7-2：材料規格2011年改訂案に対する規格委員会書面投票対応案
 - 64-8-1：事例規格「溶接部の機械試験に関する代替規定」原子力専門委員会二次投票対応案
 - 64-9-1：95℃を超える系統の支持構造物の補修・取替時の供用前検査範囲、実施時期案
 - 64-9-2：扇形欠陥模式図の改訂案
 - 64-9-3：事例規格ニッケル合金溶接金属の大気中の疲労き裂進展速度案
 - 64-9-4：ピーニング方法改訂案
 - 64-9-5：クラス1機器の欠陥評価関連規定改訂案
 - 64-9-6：第2回目以降の検査間隔における試験順序改訂案
 - 64-9-7：事例規格ニッケル合金溶接金属のBWR環境中のSCCき裂進展速度案
 - 64-10-1：事例規格母材のP-No区分案
 - 64-10-2：原子力専門委員会二次投票対応案
 - 64-10-3：原子力専門委員会書面投票対応案
 - 64-10-4：設計・建設規格及び材料規格適用年版見直し案
 - 64-10-5：事例規格コンクリート製原子炉格納容器溶接規格引用規格年版案
 - 64-11-1：質問回答案
 - 64-11-2-1～3設計建設規格2011年追補版改訂案規格委員会書面投票対応案
 - 64-11-2-4：設計建設規格2011年追補版追加提案他規格の取り込み案
 - 64-11-3：2005年版(2007年追補版含む)に対する正誤表提案
 - 64-11-4：2008年版(2010年追補版まで含む)に対する正誤表提案
 - 64-12-1：コンクリート製格納容器規格改訂案の公衆審査意見対応案

64-13：高速炉規格 2012 年版における新材料の規格化

64-14-1：質問回答案

64-14-2：再処理設備溶接規格案

64-14-3：再処理設備維持規格案

64-15：各分科会報告

5. 議事内容

(1) 開会

小山委員長が委員会開会を宣言した。

(2) 出席者紹介

出席者全員の自己紹介を行った。

(3) 議事次第確認

議事次第案の確認を行い、変更の提案はなく、承認された。

(4) 前回議事録確認【資料 64-1】

前回議事録案については既に事務局から関係各位に送付済であるため、内容紹介は省略したが、承認された。

(5) 投票結果報告【資料 64-2】

事務局より、原子力専門委員会投票 No. 212 から 223、規格委員会投票 No. 143 から 153 の投票結果が報告された。

(6) 新規質問及び未回答質問【資料 64-3】

事務局より、設計・建設規格（第 I 編、2005 年版）に関する質問（2 件）の新規受付が報告された。

(7) 第 55 回発電用設備規格委員会議事録報告【資料 64-4】

事務局より、第 55 回発電用設備規格委員会の議事録が報告された。

(8) 原子力専門委員会委員／分科会委員の承認【資料 64-5】

事務局より、以下の通り原子力専門委員会、原子力専門委員会傘下の各分科会委員の再任、退任、新任の委員候補が報告された。

原子力専門委員会

〔退任〕飯井委員、森下委員、齋藤委員

〔新任〕望月先生（阪大）、杉江氏（原技協）、月森氏（JAEA）

設計・建設分科会：

〔再任〕佐々木委員（岡野バルブ）、佐々木委員（川崎重工）

材料分科会：

〔再任〕川野委員

維持規格分科会：

〔再任〕野村主査、鹿島委員、小山委員、菊池委員、若井委員、鬼沢委員

溶接分科会：

〔退任〕小畑委員

〔新任〕南氏（東芝）

使用済燃料貯蔵施設分科会：

〔再任〕三枝主査、丸岡幹事、吉村委員、広瀬委員、岩佐委員、清水委員

認証・認定分科会：

〔再任〕清水委員

配管破損防護設計分科会：

〔再任〕佐藤委員
コンクリート製格納容器規格分科会：
〔退任〕野田委員、池内委員
〔新任〕北川氏（関電）、小林氏（JNES）
高温規格分科会：
〔再任〕林委員
環境疲労評価分科会：
〔再任〕実金委員、佐藤委員
再処理設備分科会：
〔再任〕太田委員、菅谷委員
配管減肉分科会：
〔退任〕濱中委員
〔新任〕伊藤氏（東電）
小島委員の配管減肉分科会幹事就任（2011.01 配管減肉分科会互選結果）

事務局及びオブザーバー退室後、審議した結果、原子力専門委員会新任候補が了解され、各分科会委員の再任候補、新任候補が承認された。

（９）原子力専門委員会運営に関する審議

〔報告事項〕

（９－１）各分科会平成２３年度活動計画等【資料 64-6-1-1, 2, 3】

小山委員長、堂崎幹事より各分科会平成２３年度活動計画、規格整備 2011 年度計画案、技術評価に関する状況について説明が行われた。現状の機械学会における発電規格の技術評価状況を整理したものであり、今後保安院、JNES と技術評価に関して調整を行う旨、報告された。

（９－２）材料規格改訂方針に関する検討状況【資料 64-6-2】

材料規格改訂方針検討タスクの齋藤主査より材料規格改訂方針検討タスクにおける検討状況並びに材料規格改訂状況に関する説明が行われた。規格委員会書面投票は可決、５件の保留票の対応実施、二次改訂に向けた検討項目の抽出等実施とのことであった。

（９－３）MDEP 成果反映方針検討タスク【資料 64-6-3】

小山委員長より MDEP 成果反映方針検討タスク等の状況について説明が行われた。JSME 規格への MDEP 成果の反映は長期的検討は規格委員会、短期的検討は原子力専門委員会にてタスクを設置し、検討を行い、2011 年の 6 月頃に成果報告書をまとめる予定であり、規格委員会の MDEP 規格整備方針タスクは第 1 回目のタスクを開催、今後原子力専門委員会のタスクを開催予定とのことであった。

（９－４）ノート特集号への投稿方針【資料 64-6-4】

小山委員長よりノート特集号への投稿方針について説明が行われた。対象を 3 月 18 日までに選定し、原稿は 4 月 28 日までに原子力専門委員会委員長宛に提出、最終的に規格委員会にてまとめ、6 月 30 日までに JSME 事務局宛提出とのことであった。

（９－５）爆轟による配管健全性評価における歪み制限検討タスクの状況【資料 64-6-5】

山田委員より爆轟による配管健全性評価における歪み制限検討タスクの状況について説明が行われた。準備会を 1 月 27 日に開催し、維持段階への適用を視野に、今後の規格策定方針等を議論、タスクメンバーの規制機関、中立機関等からの参加を要望中とのことであった。

（９－６）材料 JIS 規格の年版読替に関する考え方【資料 64-6-6】

山田委員より材料 JIS 規格年版読替に関する考え方について説明が行われた。これまで材料 JIS 規格の年版

読替は事例規格の発行で対応してきたが、発行までに時間がかかる一方、JIS 年版読替に関する質問が寄せられ、その対応を実施していることから、今後は個別材料の同等性に関する質問の仕方を質疑応答要領に追加し、JIS 年版読替対応を追補版で対応し、事例規格の発行は例えば在庫品を使える場合にしたいとのことであった。本件は材料分科会でも議論し、次回継続検討となった。主な議論は以下の通り。

・質疑応答を審議する際、JIS 年版読替に関する根拠シートは作成するのか？→作成する。場合によっては質問者が JIS 年版読替に関する根拠シートを作成する場合もあると思われる。

(10) 発電規格に関する報告／審議

(10-1) 材料規格改訂案に関する審議【資料 64-7-1~3】

材料分科会の山田主査より材料規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①事例規格圧力容器用調質型合金鋼鍛鋼品 SFVQ1B に関する規格案【資料 64-7-1】

事例規格圧力容器用調質型合金鋼鍛鋼品 SFVQ1B に関する規格案の規格委員会書面投票対応案について説明が行われた。議論の結果、対応案は編集上の修正であること、対応案の規格委員会に対する説明の実施が委員全員の賛成で承認された。なお本規格案は次回規格委員会で承認後公衆審査を開始（3 月末～5 月末）するが、仮に公衆審査で意見が出なかった場合、公衆審査結果は次回原子力専門委員会（5 月下旬）に間に合わないためメールによる連絡とし、次々回規格委員会（6 月上旬）に報告する（発行承認を得る）ことになった。

②材料規格 2011 年改訂案【資料 64-7-2】

材料規格 2011 年改訂案の規格委員会書面投票対応案について説明が行われた。議論の結果、対応案は編集上の修正であること、対応案の規格委員会に対する説明の実施が委員全員の賛成で承認された。なお、今後の対応としては修正案（公衆審査版）ができ次第原子力専門委員会委員に配信し、3 月 7 日の材料分科会の作業会での確認結果を原子力専門委員会各委員に報告することになった。

また規格委員会書面投票対応とは別に JIS 年版の誤記訂正等に関する編集上の修正が説明された。主な議論は以下の通り。

・番号 D, E の熱処理記号の削除については例えば SUS630 等、トラブルがあった材料について 2 段熱処理の記号を削除すると適切な許容値を表から読み取ることができないのではないか？

→例えば板厚規定の材料などは許容値を表から読み取ることができないが、材料購入時の JIS 規格から許容値の対応はわかる。本件はこれらと同じ対応になる。

→採決した結果、番号 D, E 以外の編集上の修正は委員全員の賛成で承認された。また番号 D, E の編集上の修正は委員多数の賛成（賛成 20 名、保留 1 名）で承認された。

(10-2) 使用済燃料貯蔵施設規格改訂案に関する審議【資料 64-8-1】

使用済燃料貯蔵施設分科会の三枝主査、阪田委員、伊藤委員より金属キャスク構造規格事例規格案「溶接部の機械試験に関する代替規定」原子力専門委員会二次投票対応案について説明が行われた。本規格案は既に前回原子力専門委員会において二次投票実施が承認されているが、二次投票を開始する前に、本事例規格案に関わる法令の解釈等について保安院と機械学会で意見交換を行った。結果として、本事例規格案は法令を明確に逸脱するものではないことが確認できたが、機械試験適用を合理化できる根拠を提示する様、保安院から意見が寄せられた。これに対して分科会提案は法令違反ではなく、工学的判断の妥当性を確認するためにも二次投票を実施すべきというもので、議論の結果、以下の対応案が考えられた。

案 1：二次投票を実施

案 2：本規格案の対応の保留

案 3：機械試験適用を合理化できる根拠を提示して二次投票を実施

採決の結果、委員多数の賛成（案 1：18 名、案 2：2 名、案 3：2 名）により案 1 が承認された。主な議論は以下の通り。

- ・ 機械試験適用を合理化できる根拠の提示というが、具体的にどの様なデータが提示できるのか？→既存輸送容器などの機械試験データを収集し、基準に対して裕度を示すことと、データ整理して分析することを考えている。
- ・ 法令を緩和する場合、全て実績主義で工学的判断がないというのはいかがなものか。→機械試験適用の合理化は法令を変えなくても法令解釈の運用で対応できる。ただ現時点では機械試験適用を合理化できる根拠は不十分と考える。
- ・ 機械学会の事例規格に加えて、合理化根拠データの蓄積により、国のエンドースを得てはどうか。

(10-3) 維持規格改訂案に関する審議【資料 64-9-1~7】

維持規格分科会の野村主査、斎藤副主査、検査作業会の守中副主査、評価作業会の北条主査、補修作業会の山本主査より維持規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①95℃を超える系統の支持構造物の補修・取替時の供用前検査範囲、実施時期案【資料 64-9-1】

原子力専門委員会二次投票の結果、可決となったが、前回原子力専門委員会において二次投票対応案の一部を修正することになったため、今回その対応案に関する説明が行われた。議論の結果、委員多数の賛成（賛成 22 名、反対 1 名）により対応案、対応案が編集上の修正であること及び規格委員会に対する書面投票実施の提案が承認された。主な議論は以下の通り。

・ 大規模な保温復旧等が必要な対応はできないというが、支持構造物の据付状況は大規模な保温復旧を行わずに確認できるのではないかと。

→回答欄にあるとおり、データ取りは不可能ではないが I S I を行えるような条件になるまで温度を下げる運転手順は取らないことから、こう回答している。

・ 1 サイクル運転後の停止時に PSI データを取得する場合、例えば支持構造物の位置が想定以上にずれる場合も考えられる。その様な場合、その状態を PSI データとして良いのか？→施工が正しく行われたかどうかの健全性確認のための検査は P S I とは別のものとして行われ、ご指摘の様な場合は設計面からの検証を行う。

②扇形欠陥模式図の改訂案【資料 64-9-2】

原子力専門委員会書面投票結果（可決）の対応案に関する説明が行われた。議論の結果、委員多数の賛成（賛成 22 名、反対 1 名）により対応案、対応案が編集上の修正であること及び規格委員会に対する書面投票実施の提案が承認された。主な議論は以下の通り。

・ 図の表記は、例えば管の厚さについては引出線等を用いて表記するべきではないか。→現状機械学会の執筆要領では明確な規定がないため、現状通りとしたい。

③事例規格ニッケル合金溶接金属の大気中の疲労き裂進展速度案【資料 64-9-3】

原子力専門委員会書面投票結果（反対票有り）の対応案に関する説明が行われた。議論の結果、二次投票に進むに当たり、Alloy182 等の進展速度算出の際、95%信頼上限線策定時に係数 C, n を算出しているが、これらの生データや算出式の詳細の開示が必要ではないかとの意見があり、以下の対応案が考えられた。

案 1：上記データ開示の条件付で二次投票を実施

案 2：条件なしで二次投票実施

案 3：二次投票を実施しない

採決の結果、委員多数の賛成（案 1：4 名、案 2：19 名、案 3：0 名）により条件なしで二次投票実施が承認された。

④ピーニング方法改訂案【資料 64-9-4】

規格委員会二次投票結果（可決）の対応案に関する説明が行われた。議論の結果、委員多数の賛成（賛成 22

名、反対1名）により対応案及び規格委員会に対する説明の実施が承認された。

⑤クラス1機器の欠陥評価関連規定改訂案【資料64-9-5】

規格委員会二次投票結果（可決）の対応案に関する説明が行われた。議論の結果、委員多数の賛成（賛成22名、保留1名）により対応案及び規格委員会に対する説明の実施が承認された。主な議論は以下の通り。

・No.2の意見回答にもNo.1の意見回答と同じように、次回見直しの機会には検討したい旨追記した方が良いのではないか。
→追記することとする。

⑥第2回目以降の検査間隔における試験順序改訂案【資料64-9-6】

第2回目以降の検査間隔における試験順序改訂案について説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会書面投票の実施が委員全員の賛成により承認された。

⑦事例規格ニッケル合金溶接金属のBWR環境中のSCCき裂進展速度案【資料64-9-7】

事例規格ニッケル合金溶接金属のBWR環境中のSCCき裂進展速度案について説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会書面投票の実施が委員全員の賛成により承認された。

（10-4）溶接規格改訂案に関する審議【資料64-10-1~5】

溶接分科会の杉江幹事より溶接規格改訂案について説明が行われた。内容は以下の通り。

①事例規格母材のP-No区分案【資料64-10-1】

原子力専門委員会再書面投票結果（反対票有り）の対応案に関する説明が行われた。反対票の意見を反映しており、議論の結果、委員多数の賛成（賛成18名、保留1名）により規格委員会の書面投票実施が承認された。

②原子力専門委員会二次投票対応案【資料64-10-2】

原子力専門委員会二次投票（可決）意見対応案に関する説明が行われた。議論の結果、委員多数の賛成（賛成17名、反対2名）により規格委員会の書面投票実施が承認された。主な議論は以下の通り。

・溶接後熱処理の方法及びその解説見直しの1-1(3)の回答案において「規格での要求事項という観点からは、余り効果的な意味をなさない」旨記載されているが、本件は解説の記載事項であり、規格本文ではないため、この様な記載は不適切ではないか。→本記載を削除

③原子力専門委員会書面投票対応案【資料64-10-3】

原子力専門委員会書面投票結果（一部反対票有り）に対する対応案に関する説明が行われた。議論の結果、以下の対応となった。

- ・W10-03：溶接分科会にて継続検討
- ・W10-04：二次投票の実施（賛成18名、反対1名）
- ・W10-10：可決（賛成18名、保留1名）

主な議論は以下の通り。

・電子ビーム溶接の確認項目の規定表現が他の溶接方法の場合と異なっている件は是非早急な対応が必要である。→課題は認識しており、レーザビーム溶接の場合も同様であることから今後の改訂で検討する。

④設計・建設規格及び材料規格適用年版見直し案【資料64-10-4】

設計・建設規格及び材料規格適用年版見直し案について説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会書面投票の実施（期間：2週間）が委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・追補版と追補の記載の区分けについては JSME の出版部門との調整が必要なため、標準・規格センター運営・企画委員会にて検討する。目標としては 2012 年の改訂版以降に発行する追補版に反映させる。

⑤事例規格コンクリート製原子炉格納容器溶接規格引用規格年版案【資料 64-10-5】

事例規格コンクリート製原子炉格納容器溶接規格引用規格年版案について説明が行われた。引用規格に溶接規格を入れているが、表紙の溶接規格年版（2007 年改訂版）と引用規格での溶接規格追補年版との関係が分かり難い。事例規格は溶接規格の事例規格であることから、溶接規格を引用規格として記載することが適切かどうか？を含め、引用規格の記載の仕方を再検討する。

（10-5）設計・建設規格改訂案に関する審議【資料 64-11-1~4】

設計・建設分科会の永田主査より、設計・建設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①質問回答案【資料 64-11-1】

質問（QNC200577, 82）に関する回答案について説明が行われた。議論の結果、委員全員の賛成により承認された。

②設計建設規格 2011 年追補版改訂案規格委員会書面投票対応案【資料 64-11-2-1~3】

設計建設規格 2011 年追補版改訂案規格委員会書面投票対応案について説明が行われた。議論の結果、NO. 3 は反対票が取り下げられず、今回の改訂案から取り下げることになった。また NO. 3 以外の対応案が妥当であること、NO. 16 は材料規格 2011 年版の取り込みに伴い別途書面投票にかけるため、これ以外の案件（No. 10, 12, 15）の対応案が編集上の修正であること、以上の対応案を規格委員会に説明することが委員全員の賛成により承認された。

③設計建設規格 2011 年追補版追加提案他規格の取り込み案【資料 64-11-2-4】

設計建設規格 2011 年追補版追加提案他規格の取り込み案について説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会書面投票の実施が委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・クラス 2、3 容器に適用する附属書 4.3 の 5.2.6 項では供用状態 Ds において象脚座屈を許容しているが、設計・建設規格としてはそれを除外すべきではないか。技術基準違反でないということは、その機器に荷重が負荷された後もずっと使用できることである。

④2005 年版(2007 年追補版含む)に対する正誤表提案【資料 64-11-3】

2005 年版(2007 年追補版含む)に対する正誤表提案の説明が行われ、委員全員の賛成により承認された。

⑤2008 年版(2010 年追補版まで含む)に対する正誤表提案【資料 64-11-4】

2008 年版(2010 年追補版まで含む)に対する正誤表提案の説明が行われ、委員全員の賛成により承認された。

（10-6）コンクリート製格納容器規格改訂案に関する審議【資料 64-12】

コンクリート製格納容器規格分科会の兼近委員、脇岡委員、コンクリート部作業会赤瀬委員より、コンクリート製格納容器規格改訂案の公衆審査意見対応案について説明が行われた。議論の結果、委員多数の賛成（賛成 18 名、反対 2 名）により対応案、対応案が編集上の修正であること及び規格委員会に対する説明実施が承認された。主な議論は以下の通り。

・設計建設規格付録材料図表の引用を材料規格の引用に変更しているが、他の設計建設規格付録材料図表の引用箇所はどうするのか？→材料規格の引用に変更する。

・公衆審査意見対応案が規格委員会承認された後、ホームページにアップする際には意見者の氏名は削除すること。

・NO. 14 溶接部の設計において、溶接部の詳細な継手形状図が記載されていないが、ASME Sec. III Div. 2 におい

ては例えばすみ肉溶接部の詳細形状が規定されている。溶接部の詳細な継手形状図を記載すべきではないか？

（１０－７）高温規格改訂案に関する審議【資料 64-12】

高温規格分科会の浅山主査より、高速炉規格 2012 年版における新材料の規格化方針について説明が行われた。高速炉規格 2012 年版においては新材料 316FR 鋼及び改良 9Cr-1Mo 鋼の規格化を検討しており、今後の審議工程として原子力専門委員会から材料専門委員会に対して新材料規格化資料のレビュー依頼を行い、そのレビュー結果を踏まえて規格案を作成し、原子力専門委員会、規格委員会の審議及び書面投票を実施する案としている。主な内容は以下の通り。

①新材料の規格化方針

分科会から提案のあった新材料の規格化方針について、この場で判断する案と 2 週間程度検討した後判断する案が提案された。採決の結果、委員多数の賛成でこの場で判断する案が採用され、新材料の規格化方針は承認された。（この場で判断する案 15 名；2 週間程度検討した後判断する案 6 名；保留 2 名）

②新材料規格化に関する材料専門委員会へのレビュー依頼

分科会から提案のあった、新材料規格化に関して材料専門委員会に技術的観点からのレビューを依頼する案について、資料 64-12 の関連部分の文言を適切に修正することおよびレビュー依頼資料一式を原子力専門委員会委員へ送付することを条件として、採決の結果全員賛成で承認された。

なお、分科会案では新材料規格化作業と並行して高速炉用の新規材料採用ガイドラインを作成することとしていたのに対し、先に新規材料採用ガイドラインを作成し、その後、新材料規格化作業を実施すべきとの意見もあったが、最終的に分科会案が支持された。

（１０－８）再処理設備規格案に関する審議【資料 64-14-1~3】

再処理設備分科会の澄川主査、加納幹事、溶接規格作業会の高坂委員、維持規格作業会の長津委員より、再処理設備規格案について説明が行われた。内容は以下の通り。

①質問回答案【資料 64-14-1】

質問に関する回答案について説明が行われた。議論の結果、委員全員の賛成により回答案が承認された。主な議論は以下の通り。

- ・質問 1 については例えば「〇〇については〇〇規格を参照して良いか？」等、質問の記載を見直すこと。

②再処理設備溶接規格案【資料 64-14-2】

再処理設備溶接規格案に対する原子力専門委員会意見伺いの回答案に関する説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会の書面投票の実施（修正案に対する再投票及び反対意見に対する二次投票）、規格委員会に対する規格案の説明実施が委員多数の賛成（賛成 18 名、反対 1 名）により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・母材の区分において使用しない材料の P-No を削除しているが、他にも使用しない材料はあるのではないかと使用予定の材料は残している。

③再処理設備維持規格案【資料 64-14-3】

再処理設備維持規格案に関する説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会の意見伺いの書面投票の実施、規格委員会に対する規格案の説明実施が委員全員の賛成により承認された。主

（１１）各分科会活動報告【資料 64-15】

各分科会より活動報告が説明された。

6. その他

今後の原子力専門委員会の開催予定は以下の通りとなった。

- ・ 第 65 回臨時原子力専門委員会（予定）：2011 年 4 月 8 日（金）13:30~17:00・・・材料規格改訂対応
- ・ 第 66 回原子力専門委員会：2011 年 5 月 26 日（木）10:00~17:00・・・通常の原子力専門委員会

以上